

D 上級コース群（関西）

Dコース とは？

このコース群は、一流の専門家を講師とし、争訟、審判決例、講義形式としては最高水準のコースで、Cコース群(中級)修了者またはそれに準ずる実力を有する方が、より高度な実力を養成するのに最適です。



D6
受講者の声

慣れない用語や考え方がありましたが、身近な例に置き換え、かみ砕いて説明して頂いたので、よく理解できました。

判例についても、ポイントを丁寧に解説して頂いたので、非常にためになりました。

身近な事例や模擬交渉を通じて、自分の意見だけでなく他人の意見も知ることができる貴重な研修でした。講義と演習がベストなバランスで構成されており、あっという間に時間が過ぎてしまいました。



D15
受講者の声

— ご参考 —

2016 年度開催臨時研修 ～Dコース群関連～

R3A 「知的財産権訴訟における裁判所の審理の実情と最近の裁判例」(関東)

R3B 「知的財産権訴訟の動向」(関西)

R12 「わかりやすい特許判例の読み方」(関東・関西)

※2017 年度臨時研修の開催については、当会より配信しておりますメールマガジン(JIPA マガ)でもご案内しております。

◆ 下記コースは移行しました

D5 「国際契約」

→ WW26 「国際契約」 P.167

D7 「米国特許訴訟」

→ WU21 「米国特許訴訟」 P.159

D 1 特・実、審判・審決取消訴訟

D1
とは？

本コースは、審判・審決取消訴訟の制度全般及びその実務並びに最近の審判決例について、実務経験豊かな講師により講義をしますので、審判及び審決取消訴訟関係の実務を既に行っている方にも、また今後行うであろう方にも大変有意義な内容です。

※日本弁理士会継続研修対象コース。詳細はP.217 または当協会HPに掲載

研修会場：OMMビル 2階

募集定員：100名

開催日(4日間)		講義課目	講師
10/5(木)	午前	1. 審判に関する法制度と実務 不服審判、無効審判、訂正請求	弁護士 松本 司 氏
	午後	2. 最近の注目審判決例の解説Ⅰ (化学)	弁理士 神谷 恵理子 氏
11/6(月)	午前	3. 審決取消訴訟に関する 法制度と実務Ⅰ 手続概要、訴訟提起、請求原因	弁護士 松本 司 氏
	午後	4. 最近の注目審判決例の解説Ⅰ (電機・機械)	弁理士 西 博幸 氏
12/4(月)	午前	5. 審決取消訴訟に関する 法制度と実務Ⅱ 発明の要旨認定、新規性・進歩性判断	弁護士 松本 司 氏
	午後	6. 最近の注目審判決例の解説Ⅱ (化学)	弁理士 神谷 恵理子 氏
1/15(月)	午前	7. 審決取消訴訟に関する 法制度と実務Ⅲ 審理、判決、侵害訴訟との関係	弁護士 松本 司 氏
	午後	8. 最近の注目審判決例の解説Ⅱ (電気・機械)	弁理士 西 博幸 氏

1. 審判に関する法制度と実務 不服審判、無効審判、訂正請求

不服審判・無効審判・訂正請求の法制度および方式審査、審理手続きなどの各種手続き方法など審判制度全般とその実務について解説します。

2. 最近の注目審判判決例の解説Ⅰ(化学)

6. 最近の注目審判判決例の解説Ⅱ(化学)

化学分野における最近の注目審判判決例を採りあげて、その争点や裁判所の判断など判決例の重要ポイントを実務的な視点で詳細に解説します。

3. 審決取消訴訟に関する法制度と実務Ⅰ 手続概要、訴訟提起、請求原因

5. 審決取消訴訟に関する法制度と実務Ⅱ 発明の要旨認、新規性・進歩性判断

7. 審決取消訴訟に関する法制度と実務Ⅲ 審理、判決、侵害訴訟との関係

審決取消訴訟の法制度および訴訟提起、特許請求の範囲の解釈、訴訟審理、判決の効力と拘束力、

※空席がある場合は開講日2週間前まで申込可能です。
申込状況は JIPA ホームページ「空席状況」よりご確認ください。

上告手続きなどの各種実務手続きについて、最近の審理傾向にも触れつつわかりやすく解説します。

4. 最近の注目審判判決例の解説Ⅱ（電機・機械）

8. 最近の注目審判判決例の解説Ⅱ（電機・機械）

知財高裁については進歩性が厳し過ぎるとされた時期もありましたが、近年、プロパテント的傾向で安定し、審査実務も後追いしています。但し、個々の事件を見ると裁判所による違いも見られます。本講義は、電機・機械におけるボーダー的な事件を紹介し、実務上の指針となるよう解説します。

D 3 商標・不競法審判決例と企業における対応

D3
とは？

企業のブランドやペットネームを巡る紛争および商標侵害事件は近時多様化し益々複雑になる傾向にあります。

このコースでは、重要な判決例に基づいて、商標法および不正競争防止法の理論と実際ならびに商標事件・不競法事件への企業の戦略的な対応について講義します。

※日本弁理士会継続研修対象コース。詳細はP.217 または当協会HPに掲載

研修会場：協会関西事務所

募集定員：80名

開催日(4日間)		講義課目	講師
10/3(火)	午前	1. 商標に関する重要な判決例の解説	三協国際特許事務所 弁理士 川瀬 幹夫 氏
	午後	商標に関する重要な判決例の解説	
11/7(火)	午前	商標に関する重要な判決例の解説	三協国際特許事務所 弁理士 川瀬 幹夫 氏 弁護士 塩田 千恵子 氏
	午後	2. 不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	
12/12(火)	午前	不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	弁護士 塩田 千恵子 氏
	午後	不正競争防止法に関する重要な判決例の解説	
1/11(木)	午前	3. 商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応	東京都知的財産総合センター 小山 雅夫 氏
	午後	商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応	

1. 商標に関する重要な判決例の解説

商標の実務に必須の類否判断、顕著性判断、商標の使用に関する判断基準等について、最新の事例を含む豊富な判決例の紹介を交えて実務ポイントを解説します。

2. 不正競争防止法に関する重要な判決例の解説

不正競争防止法における周知著名商品等表示の冒用行為、商品形態の模倣行為、営業誹謗行為などについて、周辺法との関連分野も含めて判決例のポイントを解説します。

更に、不正競争防止法に関連する訴訟事件を題材として、受講生による議論の機会を設けた演習コーナーを設けています。

3. 商標事件・不競法事件の企業戦略と実務対応

企業の事業活動に関連して様々な商標事件や不正競争防止法事件が発生しており、この種の事件に適切に対応することは経営上極めて重要になります。企業の重要なブランドやペットネームの権利取得上の諸問題および模倣事件等々への対応にかかる戦略と実務について、事例紹介を交えて解説します。

D 6 特許侵害訴訟

D6
とは？

企業の熾烈な競争は特許権を巡る紛争を引き起こし、当事者の交渉が決裂すれば訴訟に発展する恐れがあります。このような事態に備え、特許権侵害訴訟の特質と訴訟実務を習得しておくことは、その推進役を担う実務者にとって必須です。

このコースでは、特許権侵害訴訟の理論と実務について、事例や判例を織り込み、特許権侵害訴訟の概論ならびに一連の訴訟手続きにかかる重要な法律、判例および実務ポイントを幅広い角度から経験談を交えて講義します。

また、最終回では、それまでの講義内容をより立体的に考察して知識を固め、特許権侵害への対応策(権利者の立場から)および他社による特許権行使への対抗策(被疑者の立場から)について、証拠収集、侵害警告、訴訟上の重要課題などに関わる戦術および実践ポイントを解説します。

※日本弁理士会継続研修対象コース。詳細はP.217 または当協会HPに掲載

研修会場：OMMビル 2階

募集定員：100名

開催日(4日間)		講義課目	講師
10/4(水)	午前	1. 特許権侵害訴訟概論	弁護士 伊原 友己 氏
	午後	2. 特許侵害訴訟手続(1) ・特許侵害訴訟の「訴訟物」と「要件事実」	弁護士 岩坪 哲 氏
11/10(金)	午前	3. 特許侵害訴訟手続(2) ・特許侵害訴訟の訴状と答弁書、審理	弁護士 岩坪 哲 氏
	午後	4. 特許侵害訴訟手続(3) ・侵害成否を巡る論点(クレーム解釈)	弁護士 岩坪 哲 氏
12/1(金)	午前 午後	5. 特許侵害訴訟手続(4) ・侵害成否を巡る論点(均等論) ・侵害成否を巡る論点(間接侵害、先使用权、消尽)	弁護士 久世 勝之 氏
1/12(金)	午前	6. 特許侵害訴訟手続(5) ・救済措置(差止め、損害賠償、不当利得返還請求)	弁護士 久世 勝之 氏
	午後	7. 特許権侵害を巡る訴訟戦術実践(仮処分を含む)	弁護士 伊原 友己 氏

1. 特許権侵害訴訟概論

民事訴訟手続の構造についての基本的知識の確認や他の知的財産権侵害訴訟等との比較を含め、最近の裁判例や法改正の動向をトピックスとして紹介します。特許権侵害訴訟の勘所となる実務をお伝えしながら、本コース受講に前提となる知識の共有を狙いとします。

2. 特許権侵害訴訟手続(1)「訴訟物」と「要件事実」

特許侵害訴訟を含む民事訴訟は、法律の要件である「要件事実」の有無を裁判所が認定する手続で

す。本講では民事訴訟手続における最重要概念である要件事実、また、当事者に訴訟資料提出の権限と責任を持たせる「弁論主義」、その派生ルールである「主張責任」等の民事訴訟のロジックの真髓について説明します。

3. 特許権侵害訴訟手続(2)「訴状・答弁書・審理」

本講では、特許侵害訴訟における審理目標であり確定判決が及ぶ効力を画する概念である「訴訟物」についての理解を前提に、訴状に記載すべき「請求の趣旨」、「請求の原因」、被告が答弁書に記載すべき「答弁の趣旨」について説明を加え、特許侵害訴訟がどのように審理されるかを具体的に説明します。

4. 特許権侵害訴訟手続(3)「クレーム解釈」

特許権侵害訴訟においては、数々の論点が争いになりますが、本講では最も重要な論点である「クレーム解釈」にフォーカスを当て、原則論(特許請求の範囲優先の原則)、明細書の参酌の原則、機能的クレーム、プロダクト・バイ・プロセス・クレームの解釈といった重要論点について説明を加えます。

5. 特許侵害訴訟手続(4)

この講義の内容は、文言侵害以外の侵害の成否についてです。最初の均等論では、先般の知財高裁判決も踏まえ、実践的なお話をします。残る論点(間接侵害・先使用・消尽)についても、判例等の到達点についてポイントを押さえ実務で思い出せるようお伝えします。

6. 特許侵害訴訟手続(5)

この講義の内容は、特許権侵害により原告が裁判所に求める請求・救済措置である、差止と損害賠償等の金銭請求です。差止についてどのような差止を求めることができるのかを、損害賠償及び不当利得返還請求といった金銭的請求について民法を踏まえた特許法の規定の理解と利用をお話いたします。

7. 特許権侵害を巡る裁判戦術実践(仮処分を含む)

これまでの受講成果を踏まえて、仮処分手続等の関連手続も含めた解説を行うと共に、実際の事件のやり取りなども概説します。さらに、必要に応じて、法改正の動向なども含め、トピックス等にも触れて本コースの一連の講義の総括をします。

D15 交渉学（応用）

D15
とは？

本コースは、C15「交渉学(入門)」の既受講者を対象として想定し、演習の比重を高めて知財実務に直接役立つ交渉スキルを実践的に習得させることを目指しています。本研修では、交渉力を鍛える上で不可欠となる3つの能力(論理的思考力、交渉戦略立案能力、交渉マネジメント能力)について、inputは最小限に留め、ケースに基づいた模擬交渉(ロールプレイ)やディスカッションそしてフィードバックを組み合わせた体験的かつ実践的な講義展開によって習得していただきます。演習では複数のケースを採り上げますが、最新トピックスを取り込んだ知財を絡めたビジネス交渉の事例を扱います。交渉学に関する基礎的な知識をお持ちの方で、さらに実践的な知財交渉スキルを学びたい方に最適な内容となっています。

(本コースは、C15「交渉学(入門)」の続編として開催します。このため、受講対象者は「交渉学(入門)」を受講済みか、それと同程度の知識・経験をお持ちの方に限らせていただきます。)

※日本弁理士会継続研修対象コース。詳細はP.217または当協会HPに掲載

研修会場：協会関西事務所

募集定員：40名

開催日(1日間)		講義課目	講師
2/16(金)	午前	1. 交渉学の概要と知財ビジネス交渉のマネジメント	大学教授 隅田 浩司 氏
	午後	2. 基本的な取引交渉(演習) 3. 事業提携交渉(演習)	

1. 交渉学の概要と知財ビジネス交渉のマネジメント

- ・交渉学への招待
- ・論理的思考と交渉力
- ・事前準備の方法論
- ・交渉のマネジメント
- ・交渉における心理バイアスとその克服

2. 基本的な取引交渉【演習】模擬交渉 Part 1(一般ビジネス事例)

- ・事前準備(ケースの読み込み、グループでの戦略立案)
- ・1対1のロールプレイ
- ・振り返り(交渉相手、グループ)
- ・質疑応答
- ・講評

3. 事業提携交渉【演習】模擬交渉 Part 2(知財が関連する事例)

- ・事前準備(ケースの読み込み、グループでの戦略立案)
- ・1対1のロールプレイ
- ・交渉相手との振り返り
- ・グループディスカッション
- ・質疑応答
- ・総括